

<なし> ハダニ類

1. 発生の初期にこれらの薬剤を散布する。マシン油乳剤は冬期に散布する。
 2. 殺ダニ剤抵抗性の発達をできるだけ回避するため同一薬剤を連用しない。
 3. 夏季に合ピレ剤を散布するとハダニが多発する場合がありますので注意する。
 4. 茶園に隣接する園では茶の萌芽から収穫までの期間はアルタベールの使用を控える。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アタックオイル	I:UNM/F:NC	発芽前	-	散布
アルタベールフロアブル	F:M01(M)	休眠期	9回以内	散布
カネマイトフロアブル	I:20B	収穫前日まで	1回	散布
コロマイト水和剤	I:6	収穫前日まで	1回	散布
スターマイトフロアブル	I:25A	収穫前日まで	1回	散布
スプレーオイル	I:UNM/F:NC	発芽前	-	散布
ダニサラバフロアブル	I:25A	収穫前日まで	2回以内	散布
ハーベストオイル	I:UNM/F:NC	発芽前	-	散布
バロックフロアブル	I:10B	収穫14日前まで	2回以内	散布

<なし> ニセナシサビダニ

1. 4月中旬～6月中旬に防除を行う。
 2. マシン油乳剤は冬期に散布する。
 3. 茶園に隣接する園では茶の萌芽から収穫までの期間はモベントの使用を控える。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
カネマイトフロアブル	I:20B	収穫前日まで	1回	散布
コロマイト水和剤	I:6	収穫前日まで	1回	散布
サンマイト水和剤	I:21A	収穫21日前まで	1回	散布
スプレーオイル	I:UNM/F:NC	発芽前	-	散布
ダニロンフロアブル	I:21A	収穫14日前まで	1回	散布
ハーベストオイル	I:UNM/F:NC	発芽前	-	散布
ハチハチフロアブル	I:21A/F:39(C1)	収穫30日前まで	1回	散布
モベントフロアブル	I:23	収穫14日前まで	3回以内	散布

<なし> アブラムシ類

1. 4月～6月に防除を行う。
 2. 茶園に隣接する園では茶の萌芽から収穫までの期間はチェス、トランスフォーム、モベントの使用を控える。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アクタラ顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
アドマイヤー顆粒水和剤	I:4A	収穫3日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	2回以内	散布
アルバリン顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
エクシレルSE	I:28	収穫前日まで	3回以内	散布
オリオン水和剤40	I:1A	収穫3日前まで	2回以内	散布
スタークル顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
ダントツ水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
チェス顆粒水和剤	I:9B	収穫14日前まで	2回以内	散布
トランスフォームフロアブル	I:4C	収穫前日まで	3回以内	散布
ハチハチフロアブル	I:21A/F:39(C1)	収穫30日前まで	1回	散布
バリアード顆粒水和剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
モスピラン顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
モベントフロアブル	I:23	収穫14日前まで	3回以内	散布

<なし> カイガラムシ類

1. ナシマルカイガラムシは、6月中旬、8月中～下旬の幼虫発生期に防除を行う。
 2. コナカイガラムシ類の項を参照。
 3. マシン油乳剤は冬期に散布する。
 4. 茶園に隣接する園では茶の萌芽から収穫までの期間はトランスフォームの使用を控える。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アタックオイル	I:UNM/F:NC	発芽前	-	散布
スプレーオイル	I:UNM/F:NC	発芽前	-	散布
トモノールS	I:UNM/F:NC	発芽前	-	散布
トランスフォームフロアブル	I:4C	収穫前日まで	3回以内	散布
ハーベストオイル	I:UNM/F:NC	発芽前	-	散布
マラソン乳剤	I:1B	収穫14日前まで	5回以内	散布
モスピラン顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布

<なし> カイガラムシ類幼虫

1. ナシマルカイガラムシは、6月中旬、8月中～下旬の幼虫発生期に防除を行う。
 2. カイガラムシ類およびコナカイガラムシ類の項を参照。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アブロード水和剤	I:16	収穫30日前まで	2回以内	散布

<なし> コナカイガラムシ類

1. 5月上旬、6月下旬～7月上旬、9月中～下旬の幼虫発生期に防除を行う。
 2. 第1世代幼虫期の防除を重点的に行う。
 3. 卵のうが減った時期（卵のうから幼虫が出た直後）が防除時期である。
 4. 8月下旬に枝幹に粗布を巻き、越冬卵を生む成虫を誘引し、冬季に処分する。

5. 晩秋に粗皮を削り、越冬場所を減らす。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アクタラ顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
アドマイヤー顆粒水和剤	I:4A	収穫3日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	2回以内	散布
アルバリン顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
スタークル顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
ダントツ水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布

<なし> クワコナカイガラムシ

1. コナカイガラムシ類の項を参照する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
バリアード顆粒水和剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布

<なし> カメムシ類

- 前年秋の発生が多かった場合は越冬成虫の発生に注意する。
- 主要種のチャバネアオカメムシは、ナシでは7月から飛来が増加する。
- スギ・ヒノキの穂果が多い年は8月下旬以降の新成虫が多くなる。
- 年による発生量の変動が大きいため、病害虫発生予察情報を参考に防除を行う。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アクタラ顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
アグロスリン水和剤	I:3A	収穫前日まで	3回以内	散布
アディオフロアブル	I:3A	収穫前日まで	2回以内	散布
アドマイヤー顆粒水和剤	I:4A	収穫3日前まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	2回以内	散布
アルバリン顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
スタークル顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
テルスター水和剤	I:3A	収穫前日まで	2回以内	散布
ロディー水和剤	I:3A	収穫前日まで	2回以内	散布

<なし> ハマキムシ類

- 薬剤防除適期は、5月下旬、7月上旬、7月下旬～8月上旬である。
- 第3世代幼虫の防除を重点的に行う。特に有袋の場合は袋の中に本虫が入り込んで被害が大きくなるので防除を徹底する。
- 晩秋に粗皮を削り、越冬場所を減らす。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アグロスリン水和剤	I:3A	収穫前日まで	3回以内	散布
ディアナWDG	I:5	収穫前日まで	2回以内	散布
テルスター水和剤	I:3A	収穫前日まで	2回以内	散布
フェニックスフロアブル	I:28	収穫前日まで	2回以内	散布
マトリックフロアブル	I:18	収穫前日まで	3回以内	散布
ヨーバルフロアブル	I:28	収穫前日まで	2回以内	散布
ロムダンフロアブル	I:18	収穫7日前まで	3回以内	散布

<なし> チャノコカクモンハマキ

- コンフューザーN、ハマキコンNは1ha以上のできるだけ広い面積で使用すると有効である。詳細は「生物防除法」の項を参照する。
3. 交信攪乱剤による防除方法」の項を参照する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
コンフューザーN ※1		成虫発生初期～終期		デイスペンサーを対象作物の枝に巻き付け、または挟み込み設置する。
ハマキコンN ※1		成虫発生初期～終期		本剤を枝にかける

※1 上位作物群「果樹類」の登録薬剤

<なし> チャハマキ

- コンフューザーN、ハマキコンNは1ha以上のできるだけ広い面積で使用すると有効である。詳細は「生物防除法」の項を参照する。
3. 交信攪乱剤による防除方法」の項を参照する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
コンフューザーN ※1		成虫発生初期～終期		デイスペンサーを対象作物の枝に巻き付け、または挟み込み設置する。
ハマキコンN ※1		成虫発生初期～終期		本剤を枝にかける

※1 上位作物群「果樹類」の登録薬剤

<なし> ナシチビガ

- 第1世代の防除を重点に実施して、その後の世代の発生量を抑える。
- 多発園では各世代とも2回防除を行う。
- 冬季は越冬繭を見つけやすいので除去する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アグロスリン水和剤	I:3A	収穫前日まで	3回以内	散布
テルスター水和剤	I:3A	収穫前日まで	2回以内	散布
ノーモルト乳剤	I:15	収穫前日まで	2回以内	散布

<なし> ナシホソガ

- 防除は第1回成虫の発生時期に重点をおく。
- 7月上旬、下旬、8月下旬、9月中旬に成虫が発生する。

3. 食入後の幼虫には効果が劣るので、成虫、卵期の防除を徹底する。
 4. 本種の被害が多いと輪紋病の発生が多くなるので注意する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ノーモルト乳剤	I:15	収穫前日まで	2回以内	散布

<なし> シンクイムシ類

1. 主要種であるナシヒメシンクイを重点的に防除する。
 2. ナシヒメシンクイは7月上旬から収穫期に旬ごとに防除する。
 3. ナシ園では7月から発生が増加し、晩生品種ほど加害されやすい。
 4. 収穫期近くの防除では適正使用基準に注意する。
 5. 有袋栽培でも果皮が袋に密着した部位や袋の破れた部位は加害される。
 6. 老熟幼虫が粗皮の割れ目やかけ袋の破片等で越冬するため、晩秋に粗皮削りやほ場清掃に努める。
 7. 8月下旬に枝幹に粗布を巻き、越冬幼虫を誘引し、冬季に処分する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アクタラ顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
アグロスリン水和剤	I:3A	収穫前日まで	3回以内	散布
アルパリン顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
スタークル顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
ダントツ水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
ディアナWDG	I:5	収穫前日まで	2回以内	散布
テルスター水和剤	I:3A	収穫前日まで	2回以内	散布
ノーモルト乳剤	I:15	収穫前日まで	2回以内	散布
バリアード顆粒水和剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
フェニックスフロアブル	I:28	収穫前日まで	2回以内	散布
モスピラン顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
ヨーバルフロアブル	I:28	収穫前日まで	2回以内	散布
ロディー水和剤	I:3A	収穫前日まで	2回以内	散布

<なし> ナシヒメシンクイ

1. コンピューザーNは1ha以上のできるだけ広い面積で使用すると有効である。詳細は「生物的防除法 3. 交信攪乱剤による防除方法」の項を参照する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
コンピューザーN ※1		成虫発生初期～終期		デイスパンサーを対象作物の枝に巻き付け、または挟み込み設置する。

※1 上位作物群「果樹類」の登録薬剤

<なし> フタモンダガラメイガ

1. 冬季に虫糞が排出されている被害部位の粗皮を削り、幼虫や蛹を捕殺する。
 2. 成虫は年3～4回発生する。発生園では春（4月中下旬）または夏（6月中下旬）の発生時期に薬剤を散布する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
フェニックスフロアブル	I:28	収穫前日まで	2回以内	散布

<なし> 赤星病

1. ナシ園付近のビャクシン類（イブキ類）を極力除去するように努める。
 2. 4月上旬にビャクシン類対象、4月上～下旬にナシ対象に防除を行う。
 3. ナシ園への薬剤散布は降雨直前を原則とするが、EBI剤（ステロール阻害剤：アンビル、インダー、オーシャイン、スコア、トリフミン）は降雨後に散布しても病斑形成阻止効果がある。
 4. 茶園に隣接する園では茶の萌芽から収穫までの期間はエムダイファー、オーシャイン、オーソサイド、ジマンダイセン、デラン、フルーツセイバー、ペンコゼブ、パレードの使用を控える。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アンビルフロアブル	F:3(G1)	収穫7日前まで	3回以内	散布
インダーフロアブル	F:3(G1)	収穫7日前まで	3回以内	散布
エムダイファー水和剤	F:M03(M)	収穫45日前まで	3回以内	散布
オーシャイン水和剤	F:3(G1)	収穫前日まで	5回以内	散布
オーソサイド水和剤80	F:M04(M)	収穫3日前まで	9回以内	散布
ジマンダイセン水和剤	I:UN/F:M03(M)	収穫30日前まで	5回以内	散布
スコア顆粒水和剤	F:3(G1)	収穫14日前まで	3回以内	散布
デランフロアブル	F:M09(M)	収穫60日前まで	4回以内	散布
トリフミン水和剤	F:3(G1)	収穫前日まで	3回以内	散布
パレード15フロアブル	F:7(C2)	収穫前日まで	2回以内	散布
フルーツセイバー	F:7(C2)	収穫前日まで	3回以内	散布
ペンコゼブ水和剤	I:UN/F:M03(M)	収穫30日前まで	5回以内	散布

<なし> うどんこ病

1. 夏季に乾燥すると発生が多くなるので注意し、発病を認めたら適宜防除する。
 2. ベノミル含有剤あるいはチオファネートメチル含有剤を用いる場合はどちらか1剤のみを使用すること。但し、種子への処理、種籾への処理及び塗抹処理は除く。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アミスター10フロアブル	F:11(C3)	収穫前日まで	5回以内	散布
アンビルフロアブル	F:3(G1)	収穫7日前まで	3回以内	散布
ストロビードライフロアブル	F:11(C3)	収穫前日まで	3回以内	散布
トップジンM水和剤	F:1(B1)	収穫前日まで	6回以内	散布
トリフミン水和剤	F:3(G1)	収穫前日まで	3回以内	散布
ナリアWDG	F:11(C3)	収穫前日まで	3回以内	散布
パレード15フロアブル	F:7(C2)	収穫前日まで	2回以内	散布
ベルコート水和剤	F:M07(M)	収穫14日前まで	5回以内	散布
ベンレート水和剤	F:1(B1)	収穫前日まで	4回以内	散布

ミギワ20フロアブル	F:52(A5)	収穫前日まで	3回以内	散布
------------	----------	--------	------	----

<なし> 疫病

1. 常発園では排水対策を講じ、草生栽培しきわら等を中心とする耕種的防除を行う。
2. アリエッティ水和剤の使用は6月中旬以降とする(薬害)。
3. 茶園に隣接する園では茶の萌芽から収穫までの期間はオーソサイド、デランの使用を控える。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アリエッティ水和剤	F:P07(P7)	収穫14日前まで	3回以内	散布
オーソサイド水和剤80	F:M04(M)	収穫3日前まで	9回以内	散布
デランフロアブル	F:M09(M)	収穫60日前まで	4回以内	散布

<なし> 枝枯病

1. 病斑部と健全部との境界の組織を浅く削り取った後、病斑部を含めて全体に塗布する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ベンレート水和剤	F:1(B1)	3月～6月	2回以内	マシン油乳剤で希釈し塗布

<なし> 黒星病

1. 冬季に落葉を集めて処分する(伝染源の除去)。
2. 開花直前までに発病芽を基部から切除する。
3. FRACによる作用機構コードを確認し、同一コードの薬剤の連用を避ける。
4. 開花前と後にEBI剤(ステロール阻害剤:アンビル、インダー、オーシャイン、スコア、トリフミン、マネージ)を散布する。ただし、耐性菌の出現を防ぐため、年間の使用回数を2回以内とする。
5. Q o I 剤を含む薬剤(アミスター、ストロビー、ナリア、ファンタジスタ)は耐性菌の出現を防ぐため、年間の使用回数を計2回以内とする。
6. 夏～秋の防除ではノズルを棚上に出して、徒長枝にも薬剤をかける。
7. 収穫後の防除は芽基部の感染を防止し、越冬菌量を低下させる。
8. 窒素過多は発病を助長するので、適正な施肥を行う。
9. ストロビルリン系は開花始めから落花20日後までは使用しない(薬害)。
10. 茶園に隣接する園では茶の萌芽から収穫までの期間はオーシャイン、オーソサイド、オルフィン、キノンドー、デラン、ドキリン、フルーツセイバー、パレードの使用を控える。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アグロケア水和剤	F:BM02(BM)	収穫前日まで	-	散布
アミスター10フロアブル	F:11(C3)	収穫前日まで	5回以内	散布
アンビルフロアブル	F:3(G1)	収穫前日まで	3回以内	散布
インダーフロアブル	F:3(G1)	収穫7日前まで	3回以内	散布
エコショット	F:BM02(BM)	収穫前日まで	-	散布
オーシャイン水和剤	F:3(G1)	収穫前日まで	5回以内	散布
オーソサイド水和剤80	F:M04(M)	収穫3日前まで	9回以内	散布
キノンドーフロアブル	F:M01(M)	収穫21日前まで	9回以内	散布
スコア顆粒水和剤	F:3(G1)	収穫14日前まで	3回以内	散布
ストロビードライフロアブル	F:11(C3)	収穫前日まで	3回以内	散布
デランフロアブル	F:M09(M)	収穫60日前まで	4回以内	散布
ドキリンフロアブル	F:M01(M)	収穫21日前まで	9回以内	散布
トリフミン水和剤	F:3(G1)	収穫前日まで	3回以内	散布
ナリアWDG	F:11(C3)	収穫前日まで	3回以内	散布
パレード15フロアブル	F:7(C2)	収穫前日まで	2回以内	散布
ファンタジスタ顆粒水和剤	F:11(C3)	収穫前日まで	3回以内	散布
フルーツセイバー	F:7(C2)	収穫前日まで	3回以内	散布
ベルコート水和剤	F:M07(M)	収穫14日前まで	5回以内	散布
マネージDF	F:3(G1)	収穫21日前まで	3回以内	散布
ミギワ20フロアブル	F:52(A5)	収穫前日まで	3回以内	散布
ロンセラーフロアブル	F:7(C2)	収穫前日まで	3回以内	散布

<なし> 黒斑病

1. 新水、喜水、早玉などの罹病性品種では必ず防除を行う。
2. 喜水より耐病性の静喜水を栽培する。
3. 冬期に罹病枝やボケ芽を徹底的に除去し、土中に埋没する。
4. 袋かけ前の防除を重点に行う。
5. 開花～幼果期に雨の多い年は発生が多いので、防除を徹底する。
6. 夏～秋の防除ではノズルを棚上に出して、徒長枝にも薬剤をかける。
7. 病落果は伝染源となるので、集めて深く埋める。
8. 茶園に隣接する園では茶の萌芽から収穫までの期間はオーシャイン、キノンドー、デラン、ドキリン、パレードの使用を控える。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アミスター10フロアブル	F:11(C3)	収穫前日まで	5回以内	散布
オーシャイン水和剤	F:3(G1)	収穫前日まで	5回以内	散布
キノンドーフロアブル	F:M01(M)	収穫21日前まで	9回以内	散布
スコア顆粒水和剤	F:3(G1)	収穫14日前まで	3回以内	散布
ストロビードライフロアブル	F:11(C3)	収穫前日まで	3回以内	散布
デランフロアブル	F:M09(M)	収穫60日前まで	4回以内	散布
ドキリンフロアブル	F:M01(M)	収穫21日前まで	9回以内	散布
ナリアWDG	F:11(C3)	収穫前日まで	3回以内	散布
パレード15フロアブル	F:7(C2)	収穫前日まで	2回以内	散布
ベルコート水和剤	F:M07(M)	収穫14日前まで	5回以内	散布
ロブラール水和剤	F:2(E3)	収穫14日前まで	5回以内	散布

〈なし〉 白紋羽病

1. 新植もしくは改植で発病が心配される場合は土壌消毒を行う。
2. 化学農薬を使用せずに、収穫後に地下部への温湯処理により、本病の抑制・治療が可能な温湯消毒技術が開発されている（詳細は「物理的防除法」の項を参照）。
3. 粗大有機物の施用は発病を助長するので行わない。
4. ヤシマNC Sは果樹類に適用がないため使用しない。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
フジワン粒剤	F:6(F2)	落花直後まで	2回以内	土壌混和 被害株跡地に本剤の所定量を均一に散布して土壌と十分混和する。
ガスタード微粒剤	I:8F	夏期～秋期	1回	
バスアミド微粒剤	I:8F	夏期～秋期	1回	被害株跡地に本剤の所定量を均一に散布して土壌と十分混和する。
トップジンM水和剤	F:1(B1)	休眠期	1回	灌注 土壌灌注 耕起整地後30cm間隔の千鳥状に深さ約15～50cmの穴をあけて薬液を注入し、ビニール等で7～10日間被覆する。
フロンサイドSC	F:29(C5)	収穫30日前まで	1回	
NCS ※1	I:8F	植付前	1回	

※1 上位作物群「果樹類」の登録薬剤

〈なし〉 胴枯病

1. スクレアフロアブルの使用は花卉の焼け、葉への褐点発生等の薬害を生じるおそれがあるので次の点に注意する。1) 開花期に使用する場合は、展着剤を使用しない。2) 他の薬剤を混用する場合や展着剤を加用する場合は、事前に薬害の有無を十分に確認してから使用する。3) 気象条件等により散布時や散布後に湿度が高く、液剤が長時間乾かなかった場合は、薬害が生じやすいので、使用しない。4) 施設栽培、トンネル栽培、雨除け栽培などの多湿になりやすい条件下では薬液が乾きにくいおそれがあるため、注意して使用する。
2. ベノミル含有剤あるいはチオファネートメチル含有剤を用いる場合はどちらか1剤のみを使用すること。但し、種子への処理、種粒への処理及び塗布処理は除く。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
スクレアフロアブル	F:11(C3)	収穫前日まで	3回以内	散布 散布
ベンレート水和剤	F:1(B1)	収穫前日まで	4回以内	
トップジンMペースト	F:1(B1)	剪定整枝時及び病患部 削り取り直後	3回以内	塗布
バッチレート	F:M01(M)	剪定時及び病患部削り 取り直後	3回以内	

〈なし〉 輪紋病

1. 冬期にイボの多い枝を剪除し土中に埋没する。剪除できない枝は、イボとその付近を含めて削り取り、トップジンMペーストを塗る。
2. 枝の発病はナシホソガ（ナシカワモグリ）の被害が多いと特に多くなる。
3. 樹勢が衰えると、本病の発生が多くなるので、排水や肥培管理に注意する。
4. 茶園に隣接する園では茶の萌芽から収穫までの期間はキノンドー、ドキリン、パレードの使用を控える。
5. ベノミル含有剤あるいはチオファネートメチル含有剤を用いる場合はどちらか1剤のみを使用すること。但し、種子への処理、種粒への処理及び塗布処理は除く。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アミスター10フロアブル	F:11(C3)	収穫前日まで	5回以内	散布 散布
アンビルフロアブル	F:3(G1)	収穫7日前まで	3回以内	
インダーフロアブル	F:3(G1)	収穫7日前まで	3回以内	散布 散布
オーソサイド水和剤80	F:M04(M)	収穫3日前まで	9回以内	
キノンドーフロアブル	F:M01(M)	収穫21日前まで	9回以内	散布 散布
スコア顆粒水和剤	F:3(G1)	収穫14日前まで	3回以内	
ストロビードライフロアブル	F:11(C3)	収穫前日まで	3回以内	散布 散布
ドキリンフロアブル	F:M01(M)	収穫21日前まで	9回以内	
ナリアWDG	F:11(C3)	収穫前日まで	3回以内	散布 散布
パレード15フロアブル	F:7(C2)	収穫前日まで	2回以内	
ベルコート水和剤	F:M07(M)	収穫14日前まで	5回以内	散布 散布
ベンレート水和剤	F:1(B1)	収穫前日まで	4回以内	
トップジンMペースト	F:1(B1)	剪定整枝時及び病患部 削り取り直後	3回以内	塗布

〈なし(有袋栽培)〉 ナシチビガ

1. 第1世代の防除を重点に実施して、その後の世代の発生量を抑える。
2. 多発園では各世代とも2回防除を行う。
3. 冬季は越冬繭を見つけやすいので除去する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
スミチオン水和剤40	I:1B	収穫14日前まで	6回以内	散布

〈なし(無袋栽培)〉 ナシチビガ

1. 第1世代の防除を重点に実施して、その後の世代の発生量を抑える。
2. 多発園では各世代とも2回防除を行う。
3. 冬季は越冬繭を見つけやすいので除去する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
スミチオン水和剤40	I:1B	収穫21日前まで	6回以内	散布

〈なし(西洋なしを除く)〉 黒星病

1. なし黒星病の項を参照。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
パスポート顆粒水和剤	F:M05(M)	収穫後～落葉終了まで	3回以内	散布

〈なし(露地栽培)〉 ニセナシサビダニ

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
スワルスキープラス		発生直前～発生初期	-	放飼(放飼後の厳冬期の月平均気温が10℃を下回る地域)

〈日本なし(露地栽培)〉 ハダニ類

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
システムミヤコくん		発生直前～発生初期	-	放飼